



国際交流基金巡回展
「手仕事のかたち-伝統と手技(てわざ)」
開会式 在グアテマラ日本大使 川原英一挨拶

(2015 年 9 月 9 日、午前 10 時 30 分)
 於：国立近代美術館



グアテマラ国立近代美術館マサ館長、
 グアテマラ市クエスタス文化委員長、
 ご来賓の皆様、



- (1) 日本とグアテマラの外交樹立 80 周年を記念して、そして、イベロアメリカン文化首都であるグアテマラシティに於いて、本日、「手仕事のかたち-伝統と手技(てわざ)」展を開会できることを、大変嬉しく存じます。
- (2) 本展覧会には、日本の日々の暮らしの中で育まれてきた工芸品90点を展示しております。具体的には、陶芸、染色、金工品、漆工品、木竹工品、ガラス、紙、文具の各分野の作品がご覧頂けます。日本各地の伝統的な技術と素材を使って作られた作品であり、今回の展示の中には、日本政府が指定する「伝統的工芸品」の代表的なものもあります。



(3) 展示品の中でも一番数が多い陶器は、日本では土器の製作に始まる1万3千年の歴史を持ちます。日本の陶器は、特に16世紀頃に流行した茶の湯と共に技法が発展し、今日に至るまで、色や形、質感が異なる様々な種類の焼き物が作られています。現在、日本のやきもの技術は、食器や飾り物以外に、電子機器や電気用品の重要な部品、タイルやトイレ、水や排ガスのフィルターなどとしても活用されています。

(4) このように日本の工芸品は、飾るためだけに作られているのではなく、使いやすさや耐久性も考慮されており、我々の日々の生活を豊かにしてくれています。本展覧会を通して我が国の優れた職人技や豊かな創造性を発見していただき、日本の社会・文化への関心が高まることを期待します。

(5) 最後に、この展示会開催に向けて御支援を頂いたグアテマラ市文化委員会、市役所関係者、そして近代美術館館長他の御協力に対し、厚く御礼申し上げます。(了)